

令和6（2024）年5月30日

令和5(2023)年度 外部評価委員による評価結果

令和5年度愛知文教大学外部評価委員会
愛知文教大学自己点検・評価委員会合同会議

・日時 令和6（2024）年2月6日（火）
午前11時から午前11時42分

・場所 オンライン（Zoom）

・出席 外部評価委員3名（武市礼子氏、平手悠佳里氏、朴賢晶氏）（欠席1名（山口哲氏））

自己点検・評価委員（富田学長、江口副学長・学部長、遠藤大学院研究科長、鈴木事務局長、西口FD委員長、桑原総合企画部長、別府総務部副部長、安藤教学部長、松村教務部長、梶川学生部長、早川自己点検・評価委員長・外部評価委員長）
木和田入試広報センター長

・司会：早川自己点検・評価委員長

1. 開会の言葉と出席者紹介（早川自己点検・評価委員長）
2. 学長あいさつ（富田学長）（あいさつと概要説明「地域連携、語学研修」）
3. 自己点検評価の意義について（江口副学長）
4. 概要説明と外部評価委員からの意見等の質疑応答
 - (ア) 学生受け入れ（木和田入試広報センター長）
 - (イ) 学生サービス（梶川学生部長）
 - (ウ) 教育課程・カリキュラム（松村教務部長）
 - (エ) アンケート活用（西口FD委員長）
5. 講評等（外部評価委員）
6. 学長謝辞（富田学長）
7. 閉会の言葉（早川自己点検・評価委員長）

令和5年度外部評価委員会 委員講評

外部評価委員からは次のような講評をいただきました（一部抜粋）。

特色のある大学を目指していること、またそれに向けて頑張っていると思いました。

小牧市教育委員会では地域連携として大学に小牧市の文化財を周知する活動をお願いしています。市中心部には小牧山城をはじめ中央図書館（令和3年度開館）、こまきこども未来館などさまざまな施設がありますので、学生が参画して日本文化をこどもたちに話せるようにできるとよいと思いました。

学校の北側に県指定天然記念物「大草マメナシ自生地」があり、今、整備しているマメナシ（絶滅危惧種の植物）の保全の施設である「太良まめなしの里」は令和6（2024）年3月一部完成予定で、自然に囲まれた環境にあるということもPRポイントになると思います。学生が散策して活用することで大学のPRができ学生数が増えることよいと思いました。

全員留学がとてもよい取り組みだと思いました。

近隣にオープン予定である小牧オアシスでのイベントを提案することなど、大学だけでなく児童館としても関わっていきたいと思いますし、そういうところが強い大学というのはなかなかないのでいいことだととても思います。個人的に気になったのが、カードゲームクラブについてで、学生が児童館に来てこどもたちと関わってくれることができるとよいと思います。

今回外部評価の資料のなかでもっとも印象に残ったのは教育の一貫性です。愛知文教大学の教育的な使命というのは、急激に変化する社会を生き抜く人材を育成するということがありますし、人文学部の教育目的というところを見てもいろいろな文化に触れて幅広く深い理解をベースとして、例えば言語の運用能力を高めようということが書いてありますし、さらに先ほど富田学長の挨拶にもありましたが、学長の教育方針として多文化共生など、たいへん分かりやすいフレーズがありましてこの大学の教育的な使命から学科の教育目的から学長の教育方針というものが具体化してEラウンジやCCラウンジという環境整備につながっていることがわかります。またすべての学生が留学するということがカリキュラムになってあらわれているということがわかり愛知文教大学の教育がたいへん一貫性があることに一番感心しました。とても素晴らしいと思いましたし、今後も継続できることがよいと思っています。

以上